

非核平和友好都市宣言推進事業

令和7年度 広島平和記念式典

参加報告書



令和7年度中学生代表 原爆死没者慰霊碑及び原爆ドームを背に撮影

上越市

発行に当たって

上越市は、戦後 50 年の節目に当たる平成 7 年に非核平和友好都市を宣言し、豊かな自然と長い歴史に培われた美しい郷土を末永く守るため、核兵器を廃絶し、世界の恒久平和に向け、たゆみない努力を続けることを誓いました。

以来、この宣言の趣旨を普及・啓発するため、毎年 8 月 6 日に行われる広島平和記念式典への参加のほか、平和展の開催や戦争体験談集の発行など様々な事業に取り組んでいます。

令和 7 年度は市内中学校 22 校の代表生徒が、広島平和記念式典への参列、平和の集い及び上越市教育コラボ 2025 学び愛フェスタに参加し、派遣報告や平和の誓いを述べました。

この冊子は、広島平和記念式典に参加し、犠牲者に鎮魂の祈りを捧げ、平和の尊さを直に体験されたみなさんの現地での活動内容や感じたこと、伝えたいことなどまとめたものです。

本冊子が平和について考える一助となれば幸いです。

令和 7 年 11 月

上 越 市



目 次

事業の日程	1
活動レポート	
・ 事前説明会	2
・ 出発式	3
・ 袋町小学校平和資料館	
城西中学校 3年 牛木 悠斗	4
柿崎中学校 3年 菅野 慶多	5
・ 広島平和記念資料館	
春日中学校 3年 藤沼 樹	6
清里中学校 3年 笹川 拓真	7
・ 平和記念公園	
城東中学校 3年 長崎 悠空	8
吉川中学校 3年 鳥越 颯太	9
・ 平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）	
雄志中学校 3年 笹川 ゆき	10
東頸中学校 3年 吉野 紗良	11
・ 被爆者援護会主催「献花・献水慰霊式」	
城北中学校 3年 藤本 桃羽	12
三和中学校 3年 上野 渚月	13
・ おりづるタワー	
直江津中学校 3年 西條 未来	14
・ 全国平和学習の集い	
大潟町中学校 3年 瀧本 絢音	15
中郷中学校 3年 岡田 結	16
・ 灯ろう流し	
潮陵中学校 3年 池田 夕稀	17
板倉中学校 3年 荻戸幸太郎	18
・ 原爆の子の像（献鶴）	
牧中学校 3年 金井 心優	19

・被爆遺構展示館			
八 千 浦 中 学 校	3 年	福平 亜紀	20
・広島原爆死没者追悼平和祈念館			
名 立 中 学 校	3 年	松本虎太郎	21
上越教育大学附属中学校	3 年	榊原 瑠依	22
・平和記念公園・旧燃料会館（レストハウス）			
頸 城 中 学 校	3 年	池田奈津美	23
・上越日豪協会主催「平和の集い」			
直 江 津 東 中 学 校	3 年	持田 沙和	24
直 江 津 中 等 教 育 学 校	3 年	山中 達矢	25
・上越市教育コラボ 2025 学び愛フェスタ			26

非核平和友好都市宣言

上越市ホームページに

「令和 7 年度広島平和記念式典中学生派遣事業」の
派遣の様子を動画と画像で掲載しております。

ぜひ右にあります QR コードからご覧ください。



事業の日程

【事前説明会】 7月26日（土）

時間 午後1時～4時

場所 高田図書館 高田城址公園オーレンプラザ

内容 自己紹介、事業説明、被爆体験伝承講話、平和展見学

【出発式】 8月5日（火）

時間 午前6時45分～6時55分

場所 上越妙高駅 もてなしドーム

内容 参加者紹介、教育長激励のあいさつ、折り鶴の付託及び誓いの言葉

【派遣日程】

8月5日（火）

- ・移動（上越妙高駅～広島駅）
- ・袋町小学校平和資料館見学
- ・広島平和記念資料館 見学
- ・平和記念公園 見学

8月6日（水）

- ・広島市原爆死没者慰霊式
並びに平和祈念式 参列
- ・献花・献水慰霊式 参列
- ・「全国平和学習の集い」参加
- ・灯ろう流し

8月7日（木）

- ・原爆の子の像 献鶴
- ・被爆遺構展示館 見学
- ・広島原爆死没者追悼平和祈念館 見学
- ・平和記念公園・旧燃料会館（レストハウス）見学
- ・移動（広島駅～上越妙高駅）
- ・解散

【上越日豪協会主催「平和の集い」】

8月11日（月・祝）

時間 午後5時～6時30分

場所 レインボーセンター 多目的ホール

内容 派遣報告、平和の誓い



【上越市教育コラボ 2025 学び愛フェスタ】

11月15日（土）

時間 午後1時30分～1時50分

場所 上越科学館 特設ステージ

内容 派遣報告、平和の誓い



「令和 7 年度広島平和記念式典中学生派遣事業スタート」

作成：事務局

訪 問 日	令和 7 年 7 月 26 日（土）13：00 ～ 16：00
場 所	高田図書館 第 1、2 会議室、高田城址公園オーレンプラザ スタジオ
内 容	事前説明会 ・被爆体験伝承講話 ・事業説明 ・平和展の見学

○広島平和記念式典中学校生派遣事業事前説明会

(内 容)

- 1 開会
- 2 スタッフ紹介
- 3 自己紹介
- 4 被爆体験伝承講話
- 5 感想の共有
- 6 日程説明
- 7 報告書等の作成
役割分担の説明
- 8 平和展見学



自己紹介等を行う →
中で、笑顔が多くなり
ました。

← 開会のときの
様子です。



松岡さんのお話を真剣に聞いていました。



平和展でも学習しました。

(様子)

参加の生徒たちは最初硬い表情で開会を迎えましたが、グループで好きな食べ物や好きな教科等を話しながら自己紹介する中で、笑顔が多くなり、和らいだ雰囲気の中で会が進みました。

被爆体験伝承講話では、講師の松岡貢実子さんのお話を真剣なまなざしで聞いていました。松岡さんは被爆された方の体験談や思いを私たちに伝えてくれました。「今、ある生活が当たり前と思ってはいけないうこと」「戦争は絶対してはいけないうこと」「平和は守るもの」「けんかしてもどこかで許す」といった言葉が参加した生徒に強く残ったようです。参加した生徒は「被爆された方の体験を語り継ぐことは、未来の世界にとって、すごく大事なことであり、次は私たちが未来へ語るべきだと思った。」と感想を述べていました。

感じたこと、伝えたいこと

参加した生徒は、被爆体験伝承講話を聴き、上記の感想のほかに「被爆者だからという差別があることを初めて知った」「戦争が人の心まで奪うことは知っていたが、今まで自分事としてとらえていなかった」「我々若者はもっと真剣に（戦争のことを）受けとめ、行動に移していくべきであると感じた」「被爆した方々の悔しい、悲しい思いを無駄にしないためにも、私たちが次世代に伝えていきたいと強く感じた」などがありました。実際に広島を訪れ、学びを深めるこの事業への意欲を高める一日となりました。

「学びのある 3 日間にしてきます！」

作成：事務局

訪 問 日	令和 7 年 8 月 5 日（火）午前 6 時 45 分～午前 6 時 55 分
場 所	上越妙高駅 もてなしドーム
内 容	出発式 ・参加者紹介 ・教育長激励のあいさつ ・折り鶴の付託及び誓いの言葉

保護者、学校関係の多くの皆様から見送りに来ていただきました。

早川教育長からは「80 年前に何が起こったのか、同じ中学生の未来が一瞬で閉ざされた事実をしっかり心に刻み、次の時代につなげてください。」と激励の言葉をいただきました。

市内全中学校の生徒と平和展に訪れた方々が作成した折り鶴は、派遣者を代表して潮陵中学校 池田 夕稀さんが早川教育長から受け取りました。

そして派遣生徒を代表して東頸中学校 吉野 紗良さんが誓いの言葉を述べました。



～平和の誓い～

今からちょうど 80 年前の 8 月 6 日午前 8 時 15 分に広島に原爆が投下され、およそ 14 万人もの人々の命を落としました。

そんな悲劇から 80 年たった今でも世界で戦争が起きています。

戦争を知らない我々のような世代が、戦争を経験された方々の記録・記憶を継承すること、そして平和を願う心を育むことが大切だと考えます。

今回、私たち 22 人は各中学校の代表として、この広島平和記念式典派遣事業に参加します。

広島では、原爆・戦争が人々にもたらした悲劇の歴史や『平和』の大切さについて、知識を深め、今の『平和』を守っていくことの必要性を目や心に刻み、学んでこようと思います。

私は原爆についての資料を調べて見てきました。ですが、実際に現地に行き感じたこと、思ったこと、考えが変わったこと（変わること）、がたくさんあると思います。それらをその日のうちにまとめ記録し、しっかり持って帰り家族や先輩、後輩などの周りの人にさらに伝えていきます。

上越市の代表として、一生懸命に活動し学びのある 3 日間にしていきます。

令和 7 年 8 月 5 日 東頸中学校 代表 吉野紗良

感じたこと、伝えたいこと

派遣生徒 22 名は緊張した面持ちで、出発式に臨んでいました。教育長の激励の言葉を受け、生徒の表情や平和の誓いを述べた吉野さんの言葉からも、現地でしか学べないものを 1 つでも多く知り、感じてきたいという強い思いが感じられました。上越市の皆さんが作った折り鶴とともに、派遣生徒 22 名が広島に旅立ちました。

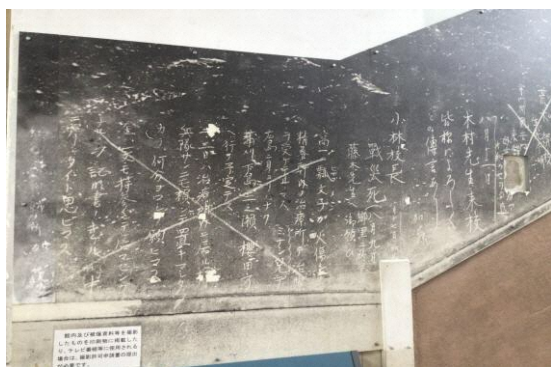
「家族に届きますように」

作成：城西中学校 3年牛木 悠斗

訪 問 日	令和 7 年 8 月 5 日（火） 午後 2 時 30 分～午後 3 時 15 分
場 所	袋町小学校平和資料館
事 前 学 習	袋町小学校は、原子爆弾の爆心地から約 460m の位置にあり、爆発を直に受け、中にいた 160 人の生徒や教員で、生き残ったのは数名でした。その後、救護所となり、たくさんの人が訪れました。今は再建され、平和資料館となっています。

安否を家族に伝える

8 時 15 分に投下された原子爆弾によって、大変多くの人が火傷や怪我を負いました。そして、この救護所に避難し、避難した人が黒板や壁などにチョークで名前を書き、自分の安否の伝言を記していました。後に家族が訪れ、自分が生きているとわかるために。左下の写真は、学校の先生の安否や生徒の伝言を煤けた壁に記したものです。右下の写真は、学校の壁に自分の家族へこれからの居場所を示したものです。しかし、これを記した後すぐに亡くなった方や、見る家族がいないメッセージもありました。



（袋町小学校平和資料館展示資料）



（袋町小学校平和資料館展示資料）

平和を願う児童の願い

袋町小学校には、戦後たくさんの学校から折り鶴が届き、階段と踊り場を埋め尽くしています。平和を望む人々の想いは、鶴となってここにずっと保管されています。



（袋町小学校平和資料館展示資料）

感じたこと、伝えたいこと

「一つの爆弾で家族と離れ離れになり、あちこちを探し回る」こんなに寂しくて辛いことはないと思います。もう 80 年も前のことで、今は平和な時代となり、戦争に関心をもつ人が少なくなっているかもしれません。しかし、今でも世界ではロシアとウクライナ、中東などで戦争や紛争が起こり、罪なき民間人も巻き込まれてしまっています。同じ人として、世界に少しでも目を向けて考えてみてほしいと思います。戦争のない平和な世界を作っていくために今生きている我々が行動しなければなりません。

「袋町小学校が伝えてくれたもの」

作成：柿崎中学校 3年 菅野 慶多

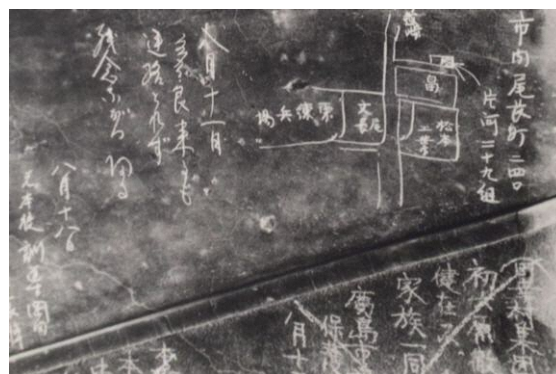
訪 問 日	令和 7 年 8 月 5 日 (火) 午後 2 時 30 分～午後 3 時 15 分
場 所	袋町小学校平和資料館
事 前 学 習	1. 原子爆弾の被害にあった学校の一つ 2. 沢山の子どもたちが亡くなった事実を資料館として残している 3. 爆心地との距離は約 460m

袋町小学校/袋町小学校平和資料館とは？

爆心地から約 460m の所にある、袋町小学校は米軍によって投下された原子爆弾の被害を受けた小学校です。当時の学校では疎開していた生徒もいましたが、残っていた生徒はほぼ即死で残ったのは数名だったそうです。また、学校の建物はほとんどが木造でしたが、唯一鉄筋コンクリート製だった「西校舎」が残り、現在の平和資料館となっています。

伝言掲示板となった校舎

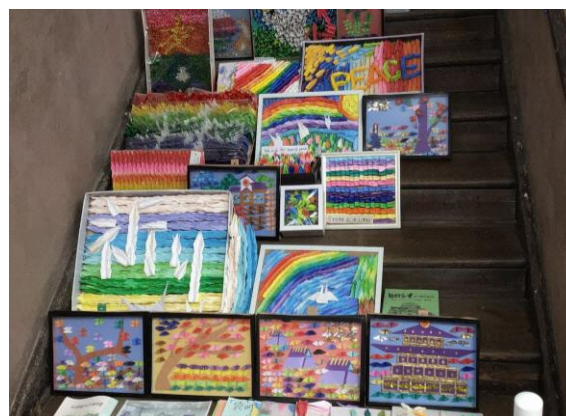
原爆の被害にあった児童・生徒の親は、自分の子を探しに校舎に行きました。しかし、生徒は whereabouts の避難所に避難していたり、爆風によって吹き飛ばされ行方不明になったりしていました。そこで児童・生徒の親や、他の被災者は黒板や階段の壁にチョークを使い「伝言」を書きました。その時の伝言は、自分の消息を伝えるものばかりでした。そして、その伝言は復元され現在に残されています。



(袋町小学校平和資料館展示資料)

袋町小学校が伝えること

袋町小学校で命を落とした児童・生徒、教師には遺族がいます。遺族にとってこの小学校資料館は、大切な人を失った「記憶の場所」であり「原爆の恐ろしさを表す場所」でもあります。袋町小学校の「伝言」と「遺族の気持ち」は、ただの過ぎた歴史ではなく、今を生きる私たちへの大切なメッセージなのだと私は考えます。そして、私たちはそれを受け取るだけでなく、次世代へと伝えることが大切だと思います。



(袋町小学校平和資料館展示資料)

感じたこと、伝えたいこと

今回の派遣、見学を通して原爆の恐ろしさを再認識することができました。そして、今まで悲惨な歴史や出来事を伝えてきた方々に代わって今度は私たちが学んだことを伝えなければならないと実感しました。私はまず、家族や学校の中で今回学んだことを共有していきます。

「手を取り合い、本当の平和を実現するために」

作成：春日中学校 3年 藤沼 樹

訪 問 日	令和 7 年 8 月 5 日（火）午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分
場 所	広島平和記念資料館
事 前 学 習	広島平和記念資料館は、原子爆弾による被害の実相を日本、世界に伝え、世界恒久平和の実現に寄与し、「ノーモアヒロシマ」のメッセージを後世に伝えていくことを目指し、1995 年 8 月 24 日に開館しました。

当時の広島

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、激しい音と共に広島に閃光が走りました。原爆が投下されたのです。そしてその原爆は一瞬にして、広島の人々の人生、生活を奪いました。被害は目に見えるものだけではありません。人々の心にも一生消えない傷を負わせました。右の写真は、跡形もなく消え去った広島の街です。



（米軍撮影）

親子の衣服

右の写真は、被爆時にある親子が身につけていた衣服です。右が娘のブラウス、左が父のワイシャツです。この親子は別々の場所で被爆し、家族が必死で看病をしましたが父は 8 月 8 日に、娘は 8 月 24 日に亡くなりました。家族にとっては耐えることのできないほどの悲しみだったと感じました。



（数村澄江寄贈 広島平和記念資料館所蔵）

平和になった広島

原爆投下、終戦から 80 年。これを「もう」と捉えるか「まだ」と捉えるかは人それぞれです。「被爆から 70 年は植物が生えない」と言われた広島の街は、今はたくさんの緑であふれています。平和になった証拠です。だからといって 80 年前の出来事は忘れてはいけません。私たちには、この出来事や平和な広島の姿を後世に伝えていく責任があります。二度とこのようなことが起こらないよう、全世代で

「ノーモアヒロシマ」

を訴えていくことが大切です。



感じたこと、伝えたいこと

今回の学習を通して思ったことは、このようなことを二度と起こしてはならないということです。日本は、世界で唯一の原爆被爆国です。原爆により亡くなった方は 2025 年 8 月 6 日時点で 34 万 9246 人。この人数は、毎年増え続けています。こんなに多くの方が 80 年間苦しみ続けてきたのです。戦争は悲しみしか生みません。みんなで手を取り合い、本当の平和を実現させましょう。

「広島の復興が平和の大切さを伝える象徴」

作成：清里中学校 3年 笹川 拓真

訪 問 日	令和 7 年 8 月 5 日（火）午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分
場 所	広島平和記念資料館
事 前 学 習	広島平和記念資料館は、原爆の悲惨さと平和の尊さを伝える展示があり、被爆者の遺品や写真、証言を通じて、原子爆弾がもたらした被害の実相を深く理解することができる。

当時の広島

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分に広島に原子爆弾が投下され、とても眩しい光とともに一瞬で人の当たり前の生活、希望や夢を奪いました。原子爆弾の怖いところは爆発ではなく放射線です。放射線はガンなどさまざまな病気を発症させ、原子爆弾投下後長い間人々を苦しめました。

水を求める人たち

今回広島平和記念資料館に行き印象に残っていることは、「水を求める人」です。原子爆弾が投下後、被爆したたくさんの人々は水をもとめて川に行ったり、学校のプールなどに行ったりしたので、水面が見えなくなるほど人で埋め尽くされ、みんな力尽き溺れてしまう状況でした。被爆した方々はみんな大火傷をし、誰が誰かわからないほど肌が赤くなり人が 2 倍近くの大きさに膨れ上がってしまいました。それでも水を求めている人に水を与えてあげられない。水を飲むことで出血が再発したり、症状が悪化する恐れがあったため、水を与えることができなかったのです。このことを考えると本当に地獄のようで辛かったと思います。

現在の広島

今年、2025 年 8 月 6 日に広島市に原子爆弾が投下されてから 80 年を迎えました。この節目の年において、被爆者たちが伝える核兵器廃絶の声を国内外に改めて訴え、被爆の惨禍を語り継ぐ取り組みが行われました。あの日一瞬にして奪われた夢と希望ですが、広島の方々やボランティアの努力により復興され、街並みの色を取り戻しました。広島復興の姿が世界に平和の大切さを伝える象徴となっていると思いました。



（米軍/撮影）



（吉村吉助作 広島平和記念資料館所蔵）



現在の広島市（おりづるタワーから撮影）

感じたこと、伝えたいこと

原爆の悲惨な実態と凄まじさを目の当たりにし、戦争の恐ろしさや核兵器の非人道性を深く認識しました。特に、被爆者の遺品や写真、資料を通して罪のない人々が犠牲になった現実を知り、平和の尊さを改めて実感するとともに、二度と悲劇を繰り返してはならないという強い思いを抱きました。

「広島の 80 年前の記憶と被爆者の平和への願い」

作成：城東中学校 3年 長崎 悠空

訪 問 日	令和 7 年 8 月 5 日（火）午後 5 時 00 分 ～ 午後 6 時 30 分
場 所	平和記念公園
事 前 学 習	平和記念公園は 1954 年に完成しました。元々この地は江戸時代から昭和初期にかけて広島市の繁華街でした。ここには原爆の子の像や「安らかに眠ってください過ちは繰り返しませんから」と書かれた石碑をはじめ、被爆した人々の平和の願いを形にした物があります。

【原爆ドーム】

みなさん広島、原子爆弾といったらまずこの建造物が頭に浮かぶのではないのでしょうか？これは当時「広島県産業奨励館」として利用されていました。1945 年午前 8 時 15 分爆心地から約 160m の至近距離で被爆。私は現地で折れ曲がった鉄骨や崩れ落ちて散らばった数えきれない煉瓦を見ました。この建造物は頂上がドームの形であることから「原爆ドーム」と呼ばれる様になりました。実際に現場で見て、当時の人の辛い、苦しい思いを感じると共に原爆のとてつもない脅威、戦争の悲惨さを感じることができました。



【原爆の子の像】

みなさんはこの像を見たことがあるのでしょうか？これは公園内にあるのですが、ある人がモデルとなっています。佐々木貞子さんです。彼女は 2 歳で被爆し、白血病により 12 歳で亡くなりました。このことを受けて貞子さんの同級生達は「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と世の中に広く呼びかけ 1958 年 5 月 5 日に完成させました。



【平和の灯火】

広島平和記念公園の「平和の灯」は、昭和 39 年 1964 年に点火されて以来、核兵器の廃絶と世界恒久平和を願い、今も燃え続ける象徴的な火です。台座は水を求めて亡くなった犠牲者の慰霊を表現し、手を広げた形をしています。灯火は核兵器が地球上から姿を消す日まで消さずに守り続ける決意の象徴です。



感じたこと、伝えたいこと

私はこの地を訪れて改めて戦争、核廃絶について関心を持ちました。世界恒久平和を実現するには核廃絶しかあり得ません。核兵器を生み出した人間が核兵器という存在をこの世からなくすべきなのです。今私たちがそれに直接つながる様な取り組みができるのかという難しい部分があるかもしれません。しかし核の恐ろしさ、戦争はしてはいけないということを後世に伝え繋ぐことが私達にはできると思います。みなさん、今からでも遅くはありません。被爆体験者の証言を自分の耳で聞き彼ら彼女らの悲しみ、苦しみ、そして平和を願う気持ちを無駄にしないために私達が平和や核廃絶について真剣に考えていくこと。そして広島 80 年前の記憶を風化させないようにすること。これらが今を生きる私達に託された使命であるということをこの派遣で強く感じました。みなさんもこのことを胸に刻み絶対に忘れないでいて欲しいです。

「語り継がなければいけない訳」

作成：吉川中学校 3年 鳥越 颯太

訪 問 日	令和 7 年 8 月 5 日（火） 午後 5 時 00 分～午後 6 時 30 分
場 所	平和記念公園
事 前 学 習	広島平和記念公園は、広島市の中心部に位置し、原爆ドームや広島平和記念資料館、原爆死没者慰霊碑などがある、世界平和を祈念するための都市公園。この公園は、原爆投下で壊滅したこの地に、犠牲者を追悼し、恒久平和を願って建設された。

●【原爆ドーム】 →



- 1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分に広島に原子爆弾が投下されました。
- 平和記念公園は原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念して開設されました。園内には原爆ドーム、原爆投下当時の広島の様子を展示した広島平和記念資料館、原爆死没者慰霊碑、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、広島国際会議場があります。原爆ドームは、1915 年に「広島県産業奨励館」として建てられ、1945 年の原爆によって被爆しましたが奇跡的に建物の一部は残りました。原爆ドームが残っている理由は爆風がほぼ真上から垂直に働き、鉄骨の部分だけ残ったと言われています。また、当時は、解体も検討されましたが市民の強い保存運動により被爆当時の姿で保存され、今は世界遺産として残っています。平和記念公園は原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念して開設されました。公園内には原爆ドーム、広島平和記念資料館、平和の願いを込めて設置された数々のモニュメント、被爆したアオギリなどがあります。
- ガイドを聞いて広島平和記念公園にあるモニュメントについてよく理解をし、原爆について考えることができました。原爆投下から 80 年が経ち、原爆を経験した人が減ってきた今、戦争について若者は特に知らなければなりません。

感じたこと、伝えたいこと

今までは戦争や原爆について知らないことがたくさんありましたが、今回の体験を通して戦争の悲惨さ、残酷さを学ぶことができました。戦争を繰り返さないために自分たちが後世に戦争の恐ろしさを伝えていくことが大切だと感じました。そして最低限日本人としてこの原爆について知らないといけないと感じました。

「世界平和を願って」

作成：雄志中学校 3年 笹川ゆき

訪 問 日	令和 7 年 8 月 6 日（水） 午前 8 時 00 分～午前 8 時 50 分
場 所	広島平和記念公園 原爆死没者慰霊碑前
事 前 学 習	広島平和記念式典は毎年、広島県広島市に原爆が投下された 8 月 6 日に平和記念公園内で行われています。原爆死没者の霊を慰め、世界恒久の平和を祈念するための式典です。式典では広島市長による平和宣言が行われ、核兵器廃絶と世界平和を訴えます。また、原爆が投下された 8 時 15 分には平和の鐘を鳴らし、黙祷を捧げます。

「平和式典プログラム」

- 1.開会式 (8:00)
- 2.原爆死没者名簿奉納 (8:00)
- 3.式辞 (8:03)
- 4.献花 (8:08)
- 5.黙祷・平和の鐘 (8:15)
- 6.平和宣言 (8:16)
- 7.放鳩
- 8.平和への誓い (8:24)
- 9.あいさつ (8:29)
- 10.ひろしま平和の歌 (8:46)
- 11.閉会式 (8:50)



（広島市提供）



（広島市提供）

8 月 6 日午前 8 時から、平和記念公園で平和記念式典が行われました。今年で原爆投下から 80 年が経ちました。平和記念式典には被爆者や遺族代表を含め、過去最多の 120 の国と地域の大使などを含め 5 万 5,000 人の方々が参列されました。

原爆死没者名簿奉納

広島に落とされた原子爆弾により死没した方や、その後に死没した方（被爆者健康手紙の有無、国籍は問わない）の霊を慰め、人類の恒久平和を祈念するため、死没した方の氏名・死没年月日・死没時年齢を、昭和 27 年（1952 年）から原爆死没者名簿に登載し、広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）に奉納しています。令和 7 年 8 月 6 日現在では 34 万 9,246 人の方々が登録されており、名簿冊数は 130 冊になりました。また、令和 7 年 8 月 6 日の追加奉納数は 4,940 名でした。

子供代表 平和への誓い

広島市内の小学生 2 人が平和への誓いを述べました。一瞬にして今までの日常が奪われたあの悲劇を風化させてはいけない。被害者の声を次の世代へ語り継ぐ使命が私たちにはある。そんな 2 人の力強い訴えに心が動かされました。世界では今もまだどこかで戦争が起きています。平和な世界にするためには一人一人が平和への関心を持ち少しずつでも行動していくことが大事だと再確認しました。



（広島市提供）

感じたこと、伝えたいこと

戦争や原子爆弾の被害はその当時だけでなく、今も残り後遺症に悩まされ続けている方もいらっしゃる、戦争は終戦後でも被害者を出し続けます。また被爆したから、被爆者の子供だからという理由で結婚を断られたり差別されることがありました。私の祖母もその 1 人でした。戦争は幸せを生まず、絶望と恐怖を生んでしまいます。そんな戦争を繰り返さないよう互いを思いやり、認め合い、少しでも行動に移していくことが大切だと感じました。直接戦争を体験して語り継いでいくことができる方は年々少なくなっているため私たちが少しでも多くの人に語り継いでいきたいです。

「願いが集まる広島」

作成：東頸中学校 3年 吉野 紗良

訪 問 日	令和 7 年 8 月 6 日（水） 午前 8 時 00 分～午前 8 時 50 分
場 所	平和記念公園 原爆死没者慰霊碑前
事 前 学 習	広島平和式典は 1951 年から平和式典として開催され、現在まで続いています。1971 年から日本の首相が参加されるようになりました。原爆死没者慰霊碑の前で行う理由は、平和式典は原爆が原因でお亡くなりになった方たちの霊を慰めるためそして、世界恒久平和の実現を祈念するためです。毎年およそ 5 万 5000 人が参拝されます。

原爆死没者名簿奉納

8：00 に開式され次に原爆死没者慰霊碑に名簿奉納が、行われました。去年から一年間で新たに確認された原爆死没者は 4940 人であり、その方たちの名前が記された名簿 2 冊が遺族代表のお二方により奉納されました。

そして、今年で原爆死没者慰霊碑に収められた方々が 34 万 9246 人になりました。私はいまだに身元がわかっていない被爆者がたくさんいることを知らなかったので 2 冊の名簿がお二方の手で奉納されて行くのをみてまだ原爆による被害が続いているのだと感じました。



黙とう

8：15 に黙とうをしました。いつも広島では、8：15 に時計塔の鐘が鳴りますが、毎年 8 月 6 日の 8：15 だけは平和の鐘が鳴るということを 5 日にガイドの方に教えてもらいました。

司会の方の「黙とう」という合図で会場全体に平和の鐘の音が鳴り響きみんなで祈りました。私は、去年まではテレビの前で広島の中継を見て黙とうをしていました。なので、今この会場だけではなく日本のたくさんの人が平和を願っていると思うと日本が一つになっている気がしました。

平和宣言

広島市の小学 6 年生の 2 人が、平和宣言をしました。その平和宣言に「本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々」とあり私は、被爆者の方々の話を聞くことがどんなに重要なのか気づきました。そして、辛い中話してくださる被爆者の方々の思いを受け継ぐことができるのは、私たちだということにとっても責任感を感じました。

感じたこと、伝えたいこと

この 3 日間でもとても大切な経験をさせていただきました。特に印象に残っていることは、平和学習の集いで被爆者の方の貴重な話を聞かせていただいたことです。資料館で、原爆で残ったものやその時の風景などを近くで見ることとまた違い、直接経験したことを聞くということとはとても生々しく原爆がどんなに恐ろしいのか、なぜ戦争は無くならないのか、繰り返さないために今できることは、など短い時間でしたが考えることができました。また、自分が考えたことを周りの人と共有でき自分の意見に共感してもらえることはこんなにも嬉しいことなんだと気づくことができました。

「話し合う」や「自分の意見を言い合える」ことは私たちが平和に近づけるキーワードになるのではないかと思います。

「献花・献水慰霊式」

作成：城北中学校 3年 藤本 桃羽

訪 問 日	令和7年8月6日（水）午前9時20分～午前10時45分
場 所	平和記念公園
事 前 学 習	献花・献水慰霊式は、原爆ドームの前で行われます。私は献花、献水、献鶴の意味を調べて式に臨みました。私は慰霊式で、献鶴を行います。代表として、心から世界の平和を願い、平和を誓ってきます。

献 花

献花は、原子爆弾の被害に遭われた方々の霊を慰め、世界の恒久平和を祈って、花を添える行為です。花を添える際には、戦争の悲劇を繰り返さないという誓いと平和への願いがこめられ、行われています。この慰霊式では、たくさんの方から献花が行われていました。



献 水

原子爆弾によって発生した熱線を浴びた多くの人々が、「水を飲ませてくれ」と水を求めて亡くなされました。当時、大怪我や火傷をした人にも水をあげると、死んでしまうと言われていました。そのため、被爆した人には水を飲ませなかったのです。水を与えなかったことを御家族はずっと後悔し続けていました。献水は、被爆した際に水を飲むことができなかった原爆犠牲者のために水を添える行為です。参列者一同が献水をし、戦争で2度とこのような被害を生まないようにという、平和への想いが募りました。

献 鶴

広島で被爆した佐々木禎子さんは、放射線を浴びた影響で、被爆した10年後の12歳で白血病と診断されました。病床で病気の回復を願って、折り続けられた折り鶴が平和の象徴となったのが、献鶴の由来です。献鶴は平和への願いを込めて、たくさんの折り鶴を添える行為です。華やかな折り鶴が、献上されました。



感じたこと、伝えたいこと

私は献花・献水慰霊式で、上越市を代表して献鶴を行いました。広島に原子爆弾が投下されたことで、熱線、放射線などによって様々な被害が生まれました。献花・献水・献鶴にはそれぞれに込められた想いがあることを知りました。私は改めて、戦争は絶対にしてはいけないことだと、強く思いました。そして、慰霊式では核兵器ない世界になることを願い、そして、世界の恒久平和を祈りました。日本人として、絶対に忘れてはならない出来事について、今回の活動で知ったこと、考えたことを、周りの人々に伝えて行かなければならないと、決心しました。

「被爆者の方々へ届きますように」

作成：三和中学校 3年 上野 渚月

訪 問 日	令和7年8月6日（水） 午前9時20分～午前10時45分
場 所	平和記念公園 献花・献水慰霊式
事 前 学 習	被爆者援護会が原爆ドームの前で主催する慰霊式です。被爆者を追悼すること、過去の過ちを繰り返さないために考え直すきっかけになる場でもあります。平和の誓いを読み上げるときは、人の心を動かすことができる言葉の力を信じ、聞いている方々へ伝わるようにしたいです。

【献花・献水慰霊式プログラム】

- 1 黙祷
- 2 平和への誓い
- 3 花を添える 献花
- 4 清水をささげる 献水
- 5 折り鶴をささげる 献鶴



改まった平和の尊さ

平和記念式典後、さらに原爆ドームの前で行った式ということもあり、みんなの平和に対する意識がより一層強まったと感じました。平和は努力しないとすぐに消えてしまうし、一人の力では守ることが難しいです。だからこそみんなで協力して尊い平和を守っていききたいです。

みんなが願う平和とは「平和への誓い」



- ①国籍を問わずたくさんの人と関わり合うこと
- ②憎しみや恨みはどこかで必ず許し合うこと
- ③世界中の人々が平和で平等な社会に生きる大切さを感じていくこと

以上のことを私はこの慰霊式で誓いました。

国籍を問わず関わり合うことで他国の素晴らしさに気づき仲の良い関係を築くことができます。私は日本以外の方々と関われる活動に積極的に参加するようになり、他国の素敵さに気づきました。こんなに素敵な国と争うなんて二度としたくないと感じるようになりました。また、心の中にある憎しみや恨みを許し合うことは良い関係を築き直すために大切なことでもあります。最後に「世界中」という言葉が大切です。誰一人取り残さない。みんなで幸せを築いていききたいです。私たちが望む未来の願いを今を生きる一人として話させてもらえたことはとても嬉しかったです。

身近なところから平和への一歩を始めて、「いつか」ではなく「今すぐ」みんなが幸せだと思える世界を作っていきます。ひとりひとり自分なりの平和への誓いがあると思うので、忘れずにそれを達成していったほしいと思いました。

感じたこと、伝えたいこと

小学生の平和への誓い「いつかは訪れる被爆者のいない世界」この言葉を聞いて、よく考えてみました。被爆者のいない世界は、あの日の記憶がどんどん塗り替えられ、新しいあの日が作られてしまうのだろうか。そんなことを防ぐためにひとりひとりが事実を知り、できるだけ多くの人に日本で起こった過ちを伝えていくことが大切だと思います。

「伝えていきたい」という私たちの声や思いを行動に移し、いつかは訪れる被爆者のいない世界になっても、私たちが平和を守っていききたいです。広島派遣事業に参加して平和についての意識が高まったし、自分の成長にもつながりました。これからは今まで以上に今世界で起こっている平和ではない状態に目を向けていきます。私たちは戦争よりも平和が好きなのだから。

「戦後 80 年の景色」

作成：直江津中学校 3年西條未来

訪 問 日	令和 7 年 8 月 6 日（水）午前 10 時 50 分～午前 11 時 45 分
場 所	おりづるタワー
事 前 学 習	12 階のおりづるの壁で訪れた人々が折った鶴を落とし、年月が経つたびにたくさんの思いが積み重なっていく場所です。そしてその上には展望台があり、現在の広島一面を見渡すことができます。

「おりづるに込めた思い」

訪れた人々がおりづるタワー専用の折り紙で折ったおりづるを『折り鶴の壁』に投入します。戦後 100 年となる 2045 年に完成を目指し、世界中からの思いが積み重なっていきます。



「平和と絵画を重ねて」

おりづるタワーの展望台『広島の高』にまで登っている最中 9 つの層のスロープに平和について描かれた絵画があります。特に私が印象に残ったのはスロープ 2 層目にある絵画です。理由は努力と協力があるからこそ、どんなに難しいことでも実現できると改めて感じたからです。

この絵のように人々が平和に向かって手を取り合うような世界を目指せるといいと思いました。

月面平和都市 毛利まさみちさん

<コメント> 宇宙は地球の様に国境線を引くことはできません。

宇宙のどこかに都市が建設される日は近く、そこでは人類が皆平等で平和な生活を営んでいるはず。世界中の国々の軍事予算、科学技術を取り入れれば夢が実現するのは早い。その夢が叶った年が人類にとって真の「平和元年」となる。

月面に平和都市ができる未来は夢のようですが、その実現には地球での争いを乗り越える必要があります。地球での平和が実現してこそ、宇宙でも平和な社会を築けるのだと思います。

感じたこと、伝えたいこと

おりづるタワーに登ってまず感じたことは展望台からの景色が綺麗だったことです。かつては『戦後 75 年間は草木も生えない』と言われていた広島ですが、戦後 80 年を迎えた今では、緑豊かで活気ある都市へと復興しました。こんなに見違えるように復興できたことはたくさんの人たちの協力があってできたことだと強く思いました。

「広島で考えた平和と未来」

作成：大瀨町中学校 3年 瀧本絢音

訪 問 日	令和7年8月6日（水）午後1時30分～午後4時30分
場 所	広島市役所2階講堂
事 前 学 習	平和体験講話を聞き、全国各地から来た参加者の小・中学生やボランティア団体の方と交流する場である。

丸太のように積まれた少年

全国平和学習の集いでは、被爆体験者である河野キヨ美さんからお話しを聞く時間がありました。被爆当時、14歳であった河野さんは、爆心地から35km離れた郊外の自宅で広島市への原爆投下を知り、翌日に2人のお姉さんを探しに市内に入ったそうです。お姉さんが勤めていた病院に着いたとき、そこは地獄のような場所でした。人々が積み重なるようにコンクリートの床に転んでいて、病院の外には河野さんと同学年の中学生の死体が丸太のように放射状に山積みされていました。この時の中学生は、建物疎開作業といって、空襲による火災の延焼を防ぐために、密集した建物を取り壊す作業を行うために市街地へ行っていたそうです。

右の写真は、実際に河野さんが見た光景を絵にしたものです。



グループ・ディスカッション

ユース・ピース・ボランティアの方々をはじめ、全国の小・中学生と戦争や平和について話し合いました。話し合いでは、「今、平和でない状態とは何か」「それをどう解決できるか」という問いについて意見を出し合いました。

私は当初、平和でない状態とは“核兵器が存在すること”だと考えていました。しかし、ほかの人の意見を聞く中で、それだけではなく、身近な「いじめ」や「差別」も平和を脅かす大きな問題であることに気づきました。私たちの班では「人を傷つけない」「困っている人に手を差し伸べる」ことを大切にするべきだという意見でまとまりました。そのためには、自分のことだけでなく周囲のことも考えて行動することが必要だと学びました。



感じたこと、伝えたいこと

今回の広島派遣では、被爆体験を直接うかがうことができました。お話をしてくださった方は、当時のことを思い出すのはとてもつらいと語っていました。それでも「若い世代に伝えていかなければ、核兵器はなくならない」と強い思いで話してくださったことが心に残りました。

原爆投下から80年がたった今、実際に体験を聞ける機会は限られています。その貴重な時間をいただいたからこそ、今度は私たちが伝える側にならなければならないと実感しました。さらに、「戦争で有利な状況だけが伝えられ、不利なことは国民に知らされなかった。だからうわさをうのみにせず、自分で考えてほしい」という言葉も強く印象に残りました。このことは現代にも通じる大切な教えであり、情報があふれる社会の中で、自分の頭で考え、行動していくことの必要性を改めて学びました。

広島での学びを通して、平和とは過去を知るだけでなく、日常の中で小さな思いやりや行動を積み重ねていくことからつくられるものだ実感しました。私は、ここで得た気づきを周りの人に伝えながら、平和な未来をつないでいけるように努力していきたいです。

「全国の平和への思いを繋ぐために」

作成：中郷中学校 3年 岡田 結

訪 問 日	令和 7 年 8 月 6 日（水）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
場 所	広島市役所 2 階講堂
事 前 学 習	第二次世界大戦中、新潟県長岡では長岡空襲を受けた。昭和 20 年 8 月 1 日午後 10:30～2 日午前 0:10 の 1 時間 40 分もの間、市街地に爆撃を受ける。旧市街地の 8 割が焼け野原になり、1488 名の尊い命が失われた。8 月 1 日は長岡市内各地で追悼行事が行われる。

2025 第 1 回全国平和学習の集い

- 1, 開会 …開会挨拶、参加団体紹介
- 2, 平和学習…原爆被害の概要説明（ユース・ピース・ボランティア）
被爆体験証言（講師:河野キヨ美さん）
- 3, グループ・ディスカッション、発表
テーマ①「あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けましたか。」
テーマ②「今、平和ではない状態とはどのようなことがありますか。また、それはどうしたら解決できると思いますか。」
- 4, 閉会 …集合写真

○河野キヨ美さんの「被爆体験証言」

当時女学生 2 年生、14 歳だった河野キヨ美さんは爆心地から 35km 離れた郊外の自宅で広島市への原爆投下を知る。翌日、広島に住んでいた二人の姉を探しに市内に入った。そして市内に残っていた残留放射線によって被爆してしまう。

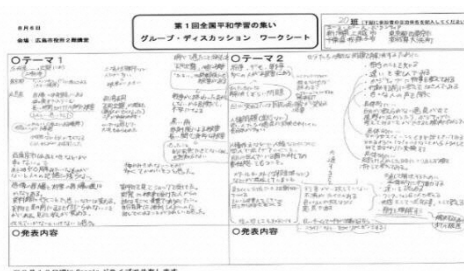
「翌朝 1 番の汽車で、母と広島に向かいました。…汽車から降りた途端、激しい悪臭がして目や鼻を刺すようでした。そして驚愕しました。広島の街が残らず消えていたのです。ただ黒く広い焼け野原です。…街に入ると足の踏み場もない程、屍が転がっていました。それを踏まないように必死に母にしがみついて歩きました。…生まれて初めて多くの残酷な屍や怪我人を見て、私の心は麻痺してしまい、何を見ても何も感じなくなりました。福屋から後の記憶が欠落し、どのようにして家に帰ったか思い出せません。」

○グループ・ディスカッション

チームに分かれ話し合いを行いました。
私のチームには東京都、千葉県、茨城県、広島県の人が集まりました。

テーマ①では、各地域の戦争被害を発表し、自分の知らない地域の被害を知ることができました。

テーマ②では、世界平和から身近な問題（差別やスクールカースト）まで話が広がり、「相手のことを知る」ことが平和の第一歩だと気づきました。



<感じたこと、伝えたいこと>

今回の全国平和学習の集いでは、平和について考え、沢山の人と関わる中で、沢山の考え方の人とも出会うことができました。でも話し合う中で意見が違っても対立することは一度もありませんでした。これは、それぞれが相手の考えに寄り添い、相手の考え方をわかろうとしていたからだと感じました。相手との違いを完全否定するのではなく、違いを楽しみ、「相手のことを知る」という、平和を築いていく上で大切な心構えを話し合いを通して学ぶことができました。

「灯ろう流し」

作成：潮陵中学校 3年 池田 夕稀

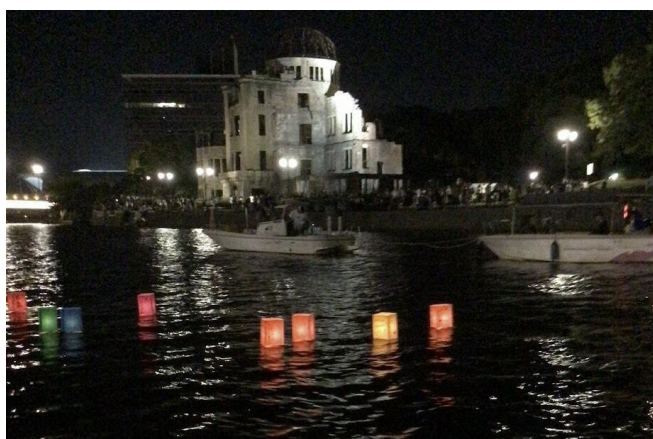
訪 問 日	令和 7 年 8 月 6 日（水）午後 8：30～午後 9：10
場 所	平和記念公園元安川
事前学習	家族を原爆で失った遺族の方々が、供養のために手作りの灯ろうを川に流したことが灯ろう流しの始まりとされています。

灯ろう流しの意味

灯ろう流しは、「慰霊」と「ピースメッセージ」の 2 つの意味を持っています。原爆で亡くなった人々への思いと、私たちが平和に生きることができているありがたさを感じつつ、今後も私たちが平和を続けることを誓い、灯ろう流しが行われています。

元安川

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、原子爆弾が広島に投下されました。原爆は一瞬にして多くの命を奪いましたが、即死を免れてもひどいやけどを負った人たちが大勢いました。その熱さと痛みに耐えかねて元安川に飛び込み、多くの人が亡くなりました。



再生紙の使用

2013 年から、灯ろうに使用する色紙の白色の部分は原爆の子の像に手向けられた「折り鶴」の再生紙が使用されています。

感じたこと、伝えたいこと

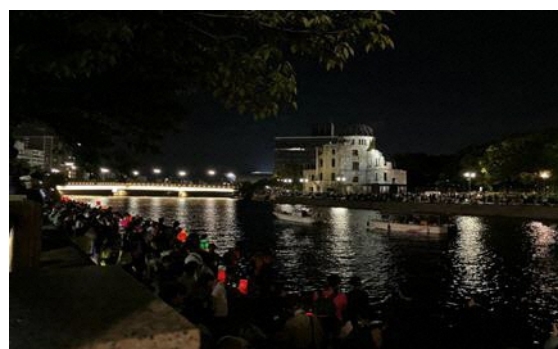
灯ろうを流す人々の姿を見て、多くの人が平和を願っていることに気づき、家族や学校の生徒に平和の大切さや命の尊さなど広島で学んできたことを伝えなければならないと強く感じました。現在、日本では少子高齢化が進んでおり、人手不足などにより伝統行事が消えつつあります。伝統行事がなくなってしまうと、地域の活力が失われ、地域の人との交流も減ってしまいます。つまり、伝統行事にはたくさんの魅力があるので、灯ろう流しなどの様々な伝統行事が途絶えてほしくないと思いました。そのために、学校や地域で行事の呼びかけを行い、多くの人に行事の興味をもってもらうことが大切だと思います。

「～灯ろう流し～から考える平和とは」

作成：板倉中学校 3年 荻戸 幸太郎

訪 問 日	令和 7 年 8 月 6 日（水） 午後 8：30 分～午後 9：10 分
場 所	平和記念公園元安川
事 前 学 習	灯ろう流しは終戦からわずか 2 年後の 1947 年頃から行われています。当初は原爆で亡くなった人の名前を書いて流していたようです。また、灯ろう流しは毎年 8 月 6 日、原爆ドーム前の元安川や他の市内の川でも行われており、広島夏の風物詩となっています。

(写真)元安川灯ろう流しと原爆ドーム →



毎年 8 月 6 日夜に広島市内の河川で行われる灯ろう流し。原爆による死没者を慰霊するための行事です。この日は、原爆投下から 80 年という節目ということも関連しているか分かりませんが、邦人のみならず、外国の方も多数来ており、かなりの長い行列でした。

紙の色は、赤や青、白、黄色などの色があつた他、大きい灯ろうもあって多種多様なようです。

見た時はもちろん驚きました。紙は全国から贈られる千羽鶴の折り紙を再生しているようです。川に色彩豊かに広がっている灯ろうは岸から見ると、光が集まっていて、迫力があります。橋から見た眺めもたくさんの色の違う灯ろうが輝いており、絶景でした。

私は、灯ろうに「過ちは繰り返させぬから」とメッセージを書きました。他の人たちの願いやメッセージも人それぞれで興味深かったです。このメッセージは原爆死没者慰霊碑の碑文の一部を引用したものです。死没者を慰霊するには一番の言葉だと考え、戦争を繰り返さないために、できることをこれからしていきたいという思いを込めています。灯ろうを流すまでは人が多くて大変でしたが、無事流すことができました。核兵器のない平和な世界になることを心から願っています。

灯ろう流しは歴史が深く、趣旨も変わっていません。世界中からたくさんの方が来ており、多くの方が平和を願っているんだなと思いました。核兵器は一発で大量の人が亡くなり、命拾った人も、後遺症や差別等に苦しめられています。しかし、このようなことになったのは、戦争を行ったからです。戦争をしなければこのようなことにはならなかったでしょう。そもそも、戦争をすること自体が残酷だと思います。灯ろうの数は 5000 から 10000 程度あると見られています。たくさんの願いが叶うよう、私たちはどうすればよいのでしょうか。現在も戦争が起きているので願うだけでは始まりません。自分でできることを模索してみましよう。

感じたこと、伝えたいこと

今回の体験を通して、灯ろう流しをするために、世界からたくさんの方が来ていることから、平和を願う人が多いことが分かりました。しかし、現在世界は平和だと言えるのでしょうか。戦争は古来から現在まで現在進行中で起きています。日本是世界唯一の被爆国なので、広島、長崎といった被爆地をこれ以上増やさないように、今一度、平和とは何なのか、どうすれば世界が平和になるのか、他人事だと思わず、一人ひとりが考えるべきことだと思います。そして、核兵器がなくなる平和な世界を実現するために過去の歴史を学んで現在の生活に活かしていましよう。

「原爆の子の像の思いの継承」

作成：牧中学校 3年 金井 心優

訪 問 日	令和7年8月7日（木）午前7：40～午前8：00
場 所	平和記念公園 原爆の子の像
事前学習	<p>広島平和記念公園にある、原爆で亡くなったすべての子供たちのための慰霊碑。 目的：原爆で亡くなったすべての子供達の霊を慰め、二度と原爆による犠牲者を出さないようにとの願いが込められている。 別名：千羽鶴の塔</p>
	<div> <div> <h3>原爆の子の像</h3> <p>平和記念公園にある「原爆の子の像」は、1945年8月6日に広島に投下された原子爆弾によって犠牲になった人々を追悼し、平和への願いを込めた象徴的な存在です。この像は、戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に伝えるための記念碑として、世界中から訪れる人々に強い感動を与えています。</p> <p>像の周りにはたくさんの折り鶴がありました。たくさんの人々が折り鶴を折って捧げたことがわかり、平和に対しての気持ちが少しずつ高まって来たのではないかと思います。</p> </div> <div>  </div> <div>  </div> <div> <p>これは ぼくらの叫びです これは 私たちの叫びです 世界に平和を きずくための</p> </div> </div> <p>この像は、平和への願いを象徴する存在として、今でも多くの人々の心に訴えかけています。</p>
感じたこと、伝えたいこと	<p>今回の体験を通して、改めて原子爆弾の怖さやもう二度と戦争を繰り返したくないと強く感じました。戦争や原爆を実際に体験した人が年々減っている中で、体験したことのない世代がどれだけ戦争や原爆についての知識を深め、理解し次の世代へと繋いでいけるかがすごく重要だと思います。</p>

「当たり前を奪う原子爆弾」

作成：八千浦中学校 3年 福平亜紀

訪 問 日	令和 7 年 8 月 7 日（木） 午前 8 時 30 分～午前 8 時 45 分
場 所	被爆遺構展示館
事 前 学 習	原子爆弾による被害の痕跡を展示している。 被爆前の町並みや暮らしを展示している。



(被爆遺構展示館展示資料)

上の写真は、地面から 60～90cm 程度掘り下げたところに残る被爆当時の民家や道路の跡です。これは家屋の土壁などが高熱で焼けて厚く固く堆積したもの(焼土層)や、焼けて炭と化した畳、板材などが出土している物です。被爆前に中島地区と呼ばれていた平和記念公園一帯には、多くの家や商店、旅館などが建ち並び、人々の日常の営みやにぎわいがあり、長年培われてきた文化がありました。

しかし、1945 年 8 月 6 日、爆心地から約 300m という至近距離にあったため、原子爆弾の爆風や熱線により、一瞬にして家屋が軒並み押し潰され焼き尽くされるとともに、多くの命が奪われました。

原子爆弾の当たり前を奪う力の強さ、破壊力を間近に受け、考えを改めることができました。

感じたこと、伝えたいこと

遺構をみて、当時の情景、過酷さを感じることができました。今も世界で戦争が起こっていて、当たり前を奪われている人たちがいます。核兵器を保有している国はその恐ろしさを今一度知るべきです。私たちは負の歴史から目を背けず、正しい情報を得て、次の世代に伝えていかなければなりません。互いの違いを認め合い、向き合って話し合うことが世界平和への第一歩だと思います。今回、広島で学んだことを忘れず、同じ悲しみが二度と起きないように、学びを深めていきたいです。

「受け継ぎ、語り継ぐ～広島歴史」

作成：名立中学校 3年 松本 虎太郎

訪 問 日	令和 7 年 8 月 7 日(木) 午前 8 時 50 分～午前 9 時 30 分
場 所	国立広島原爆死没者追悼平和祈念館
事 前 学 習	原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し、恒久の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承することを目的として、設置された施設です。

原爆死没者追悼平和祈念館

1 原爆死没者追悼平和祈念館の入り口と中の平和祈念・死没者追悼空間に『8 時 15 分』を表すモニュメントがあり、周囲には、水を求めて亡くなられた方々を弔う(とむらう)ため、噴水を配すとともに建設工事中に出土した被爆瓦などを配しています。また、平和祈念・死没者追悼空間の壁には、約 14 万人の死没者数と同数のタイルを用いて、爆心地付近から見た被爆後の街並みがパノラマで表現されています。



見て、聞いて、感じる数々の資料

2 遺影コーナー、企画展示室、体験記閲覧室では、亡くなった方のお顔や名前が書かれてあったり、実際に小学生や高校生が書いた絵が飾られてあったり、被爆体験者のお話や実際に原爆が投下された瞬間など映像で見ることができ、立っているだけで、戦争の辛さや苦しさが伝わってくる場所でした。



(国立広島原爆死没者追悼平和祈念館展示資料)

今の広島と決意

3 今の広島は、自分が思っているよりもとてもきれいなところだなと最初の方は感じていました。でも、いろんな方のお話や原爆ドームを見てからは、とても辛くて、苦しくて、何もかも失った方々がいたんだと知ることができました。また、鶴を折っている子供や幸せそうにしている家族を見た時は平和だな～と感じ、心が温くなりました。しかし自分が立っている広島で繰り返してはいけない過ちがあったことは絶対忘れないように心の中に刻んでおきたいです。そして、今ある生活が当たり前とは思わず、日々生きていることをありがたいと感じながら生活していきたいと思いました。



感じたこと、伝えたいこと

自分が広島に行って一番に感じたことは、戦争、争い、核兵器というものをこの世から無くさなければいけないこと、辛い思いや苦しい思いをした方がたくさんいたということを絶対忘れてはいけないということです。また、『今生きている事ができるのは、多くの人の支えがあったからだ』ことをいろんな人に伝えたいと思いました。それから、この派遣を通して参加した皆さんと絆を深めることができ、すごく嬉しかったです。

「あの悲劇を2度と繰り返さないために」

作成：上越教育大学附属中学校 3年 榊原瑠依

訪 問 日	令和7年8月7日（木）午前8時50分～午前9時30分
場 所	国立広島原爆死没者追悼平和記念館
事 前 学 習	広島原爆死没者追悼記念館は、広島に投下された原子爆弾によって被害を受けられた方々を追悼するためにつくられた施設です。原爆死没者の尊い犠牲を銘記し、恒久の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承することを目的としています。

◆当時の瓦礫とモニュメント

1945年8月6日午前8時15分、広島に原爆が落とされました。広島原爆死没者追悼記念館の入り口付近には当時の瓦礫と原爆が落ちた8時15分を指したモニュメントがあります。

このモニュメントの正面に立つと爆心地の方向に向くことになるそうです。当時の瓦礫を目の当たりにして、改めて原爆の威力の強さ恐ろしさを感じました。



◆平和祈念・死没者追悼空間



追悼空間に行くために、地下1階からスロープを下っていきます。スロープを反時計回りに下ることで、80年前の広島に時間をさかのぼります。平和祈念・死没者追悼空間は、原爆死没者を静かに追悼し、平和について考える場所です。1945年12月までの死没者数（約14万人）と同じ数のタイルを用いて360度のパノラマで表しています。

中央に立って周りを見渡してみると、原爆ドーム以外にはごくわずかな建物しか残らなかったことがわかります。それほど原爆1つの力は凄まじく、一瞬にして人々の「当たり前」を壊すものでした。

◆8時15分を示す水盤

記念館には「平和祈念・死没者追悼空間」があり、その空間の中央には水盤が置かれています。水盤には、原爆投下時刻の8時15分を示す形が刻まれ、水を求めて亡くなった方々を追悼するために水が流れています。

当時の被爆者の方がこの水を求めて苦しんでいたことを思うと心が痛くなりました。



感じたこと、伝えたいこと

8時15分は特別な時間であることを強く実感するとともに、80年前と今の広島は繋がっていると感じました。

あの一つの原子爆弾が、人々の何気ない日常を奪い、心に深い傷をつけました。その歴史を知ることは、戦争を体験していない私達が知らなければいけない歴史です。その歴史を知った私たちは、未来へと平和を繋いでいく使命があります。

今、この世界には「平和を守るための核保有」が存在しています。平和を守るためには、被爆者の方の想いを広く伝え、核兵器の廃絶が必要だと強く思いました。誰もが幸せに生きることが出来る未来になるように、広島でこの目で見た過去を、あの悲劇を、2度と繰り返さないように、未来へと繋いでいきたいです。

「被爆した前後を眺めて」

作成：頸城中学校 3年 池田 奈津美

訪 問 日	令和 7 年 8 月 7 日（木） 午前 9 時 40 分～午前 10 時 00 分
場 所	平和記念公園レストハウス(旧燃料会館)
事 前 学 習	爆心地から約 170m に位置しており、中島地区ではほぼ唯一残った戦前からの建物です。原爆投下時、建物内には 37 名の方がいたが、放射線や熱線・爆風などにより、助かったのは 1 名だけだったそうです。現在は被爆体験を伝える展示や、平和を祈念するイベントの開催などを行っています。

〈被爆前の中島地区〉

中島地区一番のメインストリート「中島本通り」には数多くの店が立ち並び、いつも働く人や買い物をする人であふれていました。また、地区の子どもたちにとっては、張り巡らされた路地・寺社の境内・周辺の川など様々な遊びの場所がありました。



被爆前の中島地区（平和記念公園）周辺の模型
（広島平和記念公園レストハウス展示資料）



（新築した大正屋呉服店 提供清水建設株式会社
広島平和記念公園レストハウス展示資料）

〈戦前の姿〉

大正屋呉服店は 1912 年（大正元年）に開業し、第一次世界大戦による大戦景気と呼ばれる好景気の影響により、広島を代表する呉服店に成長しました。そして、1929 年（昭和 4 年）に中島本町に移転されこの建物の歴史が始まりました。

〈後世への継承〉

レストハウスでは原子爆弾の被害の実相を後世に伝えるために、被爆当時の様子を描いた絵や、被爆直後の燃料会館の写真などが展示されています。また、タブレットを用いて原爆ドームを 3D で立体的に見られるようになっています。



（広島平和記念公園レストハウス展示資料）

感じたこと、伝えたいこと

3 日間の広島での体験を通して、改めて原子爆弾による被害の大きさやその被害の悲惨さを実感することができました。また、たった 1 発の原子爆弾によって 14 万人以上の方が亡くなったことや被爆者の方からその時の様子を直接聞いた時は、驚きと共に「悲惨」という言葉では言い表すことができないと思いました。日本は実際に原子爆弾を落とされた唯一の被爆国であり、その惨状は世界のより多くの人に知ってもらいたいと強く感じたので、日本で起こったこと・これからの世界が絶対にしてはいけないことをより多くの人に伝えていきます。

「直江津捕虜収容所」

作成：直江津東中学校 3年 持田沙和

訪 問 日	令和 7 年 8 月 11 日（月）午後 5 時 00 分～午後 6 時 30 分
場 所	レインボーセンター
事 前 学 習	直江津捕虜収容所事件とは、太平洋戦争中に捕虜となったオーストラリア兵が虐待を受けた事件。この時収容されていたオーストラリア兵 300 名の内、60 名が亡くなった。また、戦後収容所に勤めていた日本人 8 名が b,c 級戦犯として死刑判決を受けた。

資料館での学習

直江津捕虜収容所では、オーストラリア兵の方 300 名だけではなくアメリカ兵やイギリス兵また、オランダ兵の方を収容しており最終的な人数は約 700 人と言われています。しかし、この収容所は、古い塩の倉庫を改造したものだだったため、設備が充分ではなく最初の冬だけで、60 名の方が亡くなったそうです。資料館には b, c 級戦犯として死刑判決を受けた 8 名の方の遺書が展示されており、それらには、両親や妻、自分の子供への思いが綴られていました。また、オーストラリアのカウラという場所で日本軍捕虜の方が脱走するカウラ事件があったことを知りました。この事件は日本の「戦陣訓」という捕虜になるのは、一族・郷土の恥であり捕虜になるくらいなら死になさいという考えのもと起こったそうです。日本人捕虜の方々は教えを果たそうと、昭和 19 年 8 月 5 日午前 2 時、1000 名近い日本人捕虜が突撃し、最終的には、234 名が死亡、オーストラリア兵の方にも死亡者が出ました。

平和記念公園

昭和 53 年に、オーストラリアの元捕虜の方から届いた一通の手紙がきっかけとなり、交流が始まりました。終戦から 50 年が経ち、オーストラリアと日本の友好、この事件を忘れないようにと市と市民が協力して作られました。公園内には、平和友好像や捕虜収容所跡地の碑、オーストラリア兵死没者の銘板碑、捕虜収容所職員の銘板碑などがあります。

平和の集い

オーストラリア大使館の方のお話や、上越日豪協会の方の語り継ぎのお話などを聞きました。

会場には地域の小学生が作った灯籠が展示されており、一つ一つに平和への思いが書かれていました。また、全員でオーストラリアの民謡を歌ったり、佐渡おけさを踊ったりしました。終わった後、地域の方からスピーチの内容が良かったと言われ、とても嬉しく思いました。



感じたこと、伝えたいこと

直江津捕虜収容所事件を忘れずに、もっと多くの方が平和について考えてほしいと思いました。そのためには、家族や友人などに自分の体験を伝える事が大切だと思います。広島で学んだことも含めて、戦争はただお互いが傷つけ合うだけで、良いことなんて一つとしてないんだと思いました。また、日本は戦争で被害を受けた一方で、加害者として他国の人々を傷つけた事実もあることを認識する事が大切だと学びました。

「平和の集い」

作成：直江津中等教育学校 3年 山中 達矢

訪 問 日	令和 7 年 8 月 11 日（月） 午後 5 時 00 分 ～ 午後 6 時 30 分
場 所	平和の集い レインボーセンター
事 前 学 習	直江津捕虜収容所ではおよそ 300 人のオーストラリア兵が収容され、過酷な環境での生活により多数の死者が出た。その後捕虜の虐待をめぐる裁判が行われ、収容所の職員はマッカーサーへ無罪を主張した嘆願書を送ったが職員 8 人が刑死した。この集いではオーストラリア兵と刑死となった職員を慰霊する。

○平和記念公園ができるまで

- ①戦時中、直江津では塩を貯蔵する場所を捕虜収容所とし、オーストラリア兵を労働させていた。不慣れな環境であったこともありオーストラリア兵 60 人の方が亡くなった。オーストラリアのカウラでは日本兵が収容されていたが「捕虜でいるなら死んだ方がましだ」という考えから脱獄を図り亡くなる方がいた。その後直江津高校に一通の手紙と 20 冊の本が贈られる。
- ②オーストラリアのカウラでは亡くなられた日本兵を慰霊するための墓地を建ててあることを知り、平和記念公園の設立を計画する。
- ③計画していく上で多様な問題が発生していたが市や県からの募金などの支援により平成 7 年 10 月に完成した。
「死者に敵も味方もありやせん」という言葉からオーストラリアの亡くなられた方々と裁判でその責任を問われ、刑死した収容所職員を慰霊している。

○第 31 回平和の集い

上越日豪協会の方は「単に～ではなく」という言葉を強調しているように感じました。当時の出来事が遠い昔のように思われ軽く受け止められてしまっはまた過ちを繰り返してしまうのではないかと思います。私たちだれもが戦争についての知識・理解を深め、重く考えるべきだと思います。集いで皆さんの発表を聞きより平和の意識を向上させることができた実感しています。「単に」発表を聞き受け身的になるのではなく自分も皆さんに向けてスピーチをすることができ、良かったです。オーストラリア大使館の方からのお話も聞くことができました。

最後には合唱・佐渡おけさがあり実際に踊りました。これからもオーストラリアと日本の交流を大切にしたいと思います。



感じたこと、伝えたいこと

広島派遣で当時実際に使われていた物や建造物の写真を見て戦争でどれほど日常が変わってしまったのかを知ることができました。直江津捕虜収容所での出来事が風化されないように、参加して下さった皆さんと平和についての思いを共有することができ、貴重な経験ができたことを嬉しく思います。

「世界中の人々が平和で平等な社会」の実現に向けて

作成：事務局

訪問日	令和7年11月15日(土) 午後1時30分～午後1時50分
場 所	上越科学館 特設ステージ
内 容	上越市教育コラボ 2025 学び愛フェスタ 広島平和記念式典中学生派遣事業報告

広島平和記念式典中学生派遣事業報告会

(内容)

- 1 事業の説明
- 2 3日間の概要
- 2 報告1 (広島平和記念資料館を中心とした報告)
- 3 報告2 (広島平和記念式典を中心とした報告)
- 4 報告3 (平和学習の集いを中心とした報告)
- 5 平和への誓い

～平和の誓い～

8月6日、平和記念公園で行われた広島被爆者援護会主催の献花・献水慰霊式と一緒に広島を訪れた上野さんが、「みんなを平等に尊重することが大切です。私たちは国籍を問わずたくさんの人と関わりあいます」「苦しみや憎しみをどこかで必ず許しあいます」「世界中の人々が平和で平等な社会に生きる大切さを感じていきます」と平和への誓いで述べました。

上野さんの言葉をただの「理想」で終わらせないために、私たちはまず目の前の人との関係から大切にしていきます。意見が違って、すぐに否定せず、一度立ち止まって「どうしてそう思ったのか」をきくこと。誰かが困っているとき、見て見ぬふりをしないこと。当たり前の毎日の中で、その一つ一つを選んでいくことが「平和」の最初の形だと思います。

今日ここにいる皆さんも、今日からひとつだけ行動を変えてみませんか。その小さな行動は誰かの心に届き、周りに広がっていくと思います。そしてその広がりがいつか「世界中の人々が平和で平等な社会」を実現させると私たちは信じて行動していきます。

令和7年11月15日

上越市立城西中学校 牛木 悠斗

上越市立城東中学校 長崎 悠空

上越市立頸城中学校 池田奈津美



感じたこと、伝えたいこと

生徒は自らの目で見たこと、学んだこと、感じたことを報告しました。報告した生徒は「核兵器ない世界に近づくためにここにいる全員が出来ること。それは「知る」ことです。」「この悲惨な記憶と平和への思いを後世へと紡いでいくこと。それこそが、今を生きる私たちに託された使命だと強く思っています。」「私のこれからの思い・決意は【これからを生きる私たちは戦争や核兵器によって引き起こる悲惨な世の中を世界に伝え続けていき、恒久平和を目指す】です。」「とそれぞれの思いと平和への誓いを述べ、報告会を終えました。

非核平和友好都市宣言

私たちの上越市は、美しい自然のなかに歴史や文化の息づく、薫り高いまちです。この郷土を大切に守り、生きがいのある豊かな社会を築いていくことが、今の私たち市民に課せられた使命だと思います。

私たちは、これを根底からゆるがし、人類の平和と地球環境を脅かす核兵器の使用・実験は容認できません。世界唯一の被爆国の国民として、すべての国のあらゆる核兵器がすみやかに廃絶され、恒久平和が確立されることを強く願うものです。

そのためにも私たちは、この上越市から姉妹都市や国際交流の輪を広げ、世界の人々と友好のきずなを強めながら、互いの繁栄を図っていきます。

私たちの上越市は、戦後50年の節目にあたり、平和を求める決意を新たにし、ここに「非核平和友好都市」とすることを宣言します。

平成7年12月20日

上 越 市